

8月25日正午必着

明石春浦先生書

朝 章
心 成
到 已
華 雅
紛 華
市 林
園

園林幽雅已成趣。
朝市紛華豈到心。（楊心遠）

窪田華岳先生書

わ御すよきよめの御泉。勝將旅施
節の重有り在る也。山を走る澤飛。
わ猶も其平生の如也。無事のまことと云。二口
故郷何可レ到
空城流水在
令弟獨能歸
荒澤舊村稀
秋日平原路
諸將旌旆節一
蟲鳴桑葉飛
何人重布衣
(李嘉祐)

園林幽雅已成趣。
朝市紛華豈到心。（楊心遠）

市街のさわがしさも心の邪魔にならぬ。
（李嘉祐）

8月25日正午必着

さみだれの 雪にぬれて 我くれば 栗の花ちる 山かげの道

(木下 幸文)

蒼峯落日寒 萬壑秋聲起
寂歷青山曉 行人猶未已
野花成子落 江燕引雛飛
暗草薰苔徑 俗人猶語此
晴楊拂石磯 余亦轉忘歸
山行 (殷遙)

白日逐雲歸
行人猶未已
(呉承泰)

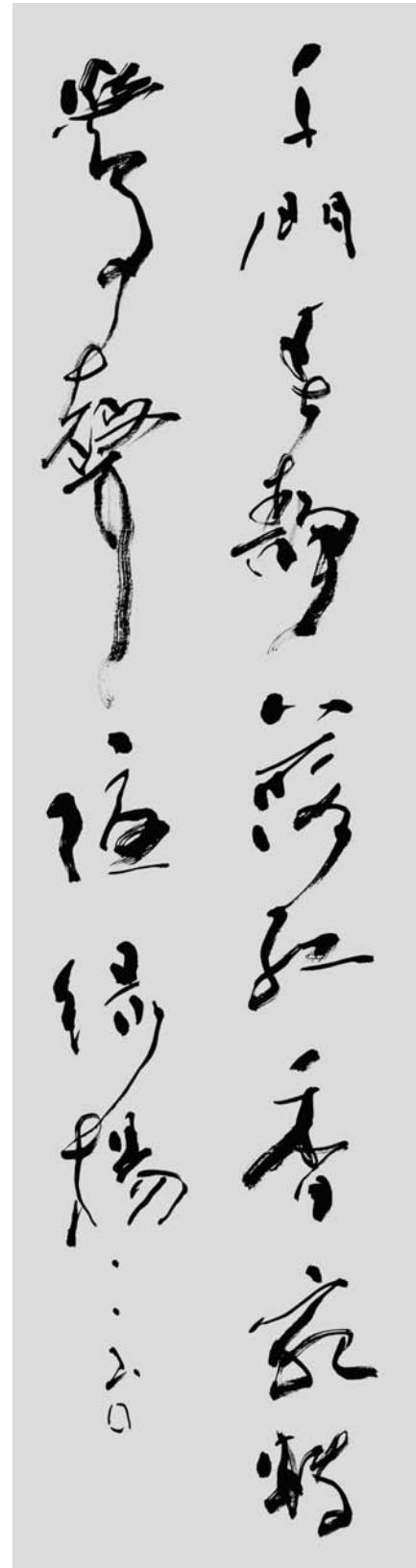
冬溫夏清

(張猛龍碑)

冬は温かくし夏は清しくす

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



明石幸子書

親孝行をいう。

蒼峯には夕日が寒々と傾きかかり、谷間という
谷間には秋声がかなでていて。今しも日は雲と
共に西山に没しようとしているが、路行く人の
歩みはつづく。

蒼峯落日寒く、萬壑秋声起る。
寂歷たる青山の曉、行人猶お未だ已ます。

山行 (殷遙)
山行趣不稀
寂歷青山曉
野花成子落
暗草薰苔徑
晴楊拂石磯
俗人猶語此
余亦轉忘歸

蒼峯落日寒く、萬壑秋声起る。
寂歷たる青山の曉、行人猶お未だ已ます。

千門春靜落紅香、宛轉鶯聲隱綠楊一
(朱受新)

宛轉はさえずる声の形容。どこの家々にも春は静かで
落花が香しく、綠楊にかくれて鶯がさえずっている。

半紙部規定課題A

8月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

寄邢逸人

鄭常



まつたく羨ましい、君は身辺の雑事にわざわざされることなく
辺鄙などに住んでるので、人はめったにやつて来ないし 谷間の奥深きところ、鳥はおのがじし飛びめぐる
蓮の葉の老いたるをとつて儒服とし 薬草の苗の肥えたのをとつて、粗末な食事をされる
もしも湖のほとりに隠棲するつもりがあるのかとおたずねならば

(と答えましょ)

日々に、世俗のおもいから遠ざかっていられるのだから
蓮の葉の老いたるをとつて儒服とし 薬草の苗の肥えたのをとつて、粗末な食事をされる

いまも共に帰隱しようとする思いを忘れてはいな

而今 共に帰らんことを憶もう

若し湖辺の意を問わば

もしも湖のほとりに隠棲するつもりがあるのかとおたずねならば

(と答えましょ)

野飯 薬苗 肥ゆ
蓮の葉の老いたるをとつて儒服とし 薬草の苗の肥えたのをとつて、粗末な食事をされる

地僻にして 人到り難く

溪深くして 鳥自ら飛ぶ

儒衣 荷葉老い

野飯 薬苗 肥ゆ

邢逸人に寄す

羨む 君が外事無く

曰に世情と違ふことを

地僻にして 人到り難く

溪深くして 鳥自ら飛ぶ

儒衣 荷葉老い

野飯 薬苗 肥ゆ

邢逸人に寄す

羨む 君が外事無く

曰に世情と違ふことを

地僻にして 人到り難く

溪深くして 鳥自ら飛ぶ

儒衣 荷葉老い

野飯 薬苗 肥ゆ

而今憶共歸一

日與世情違

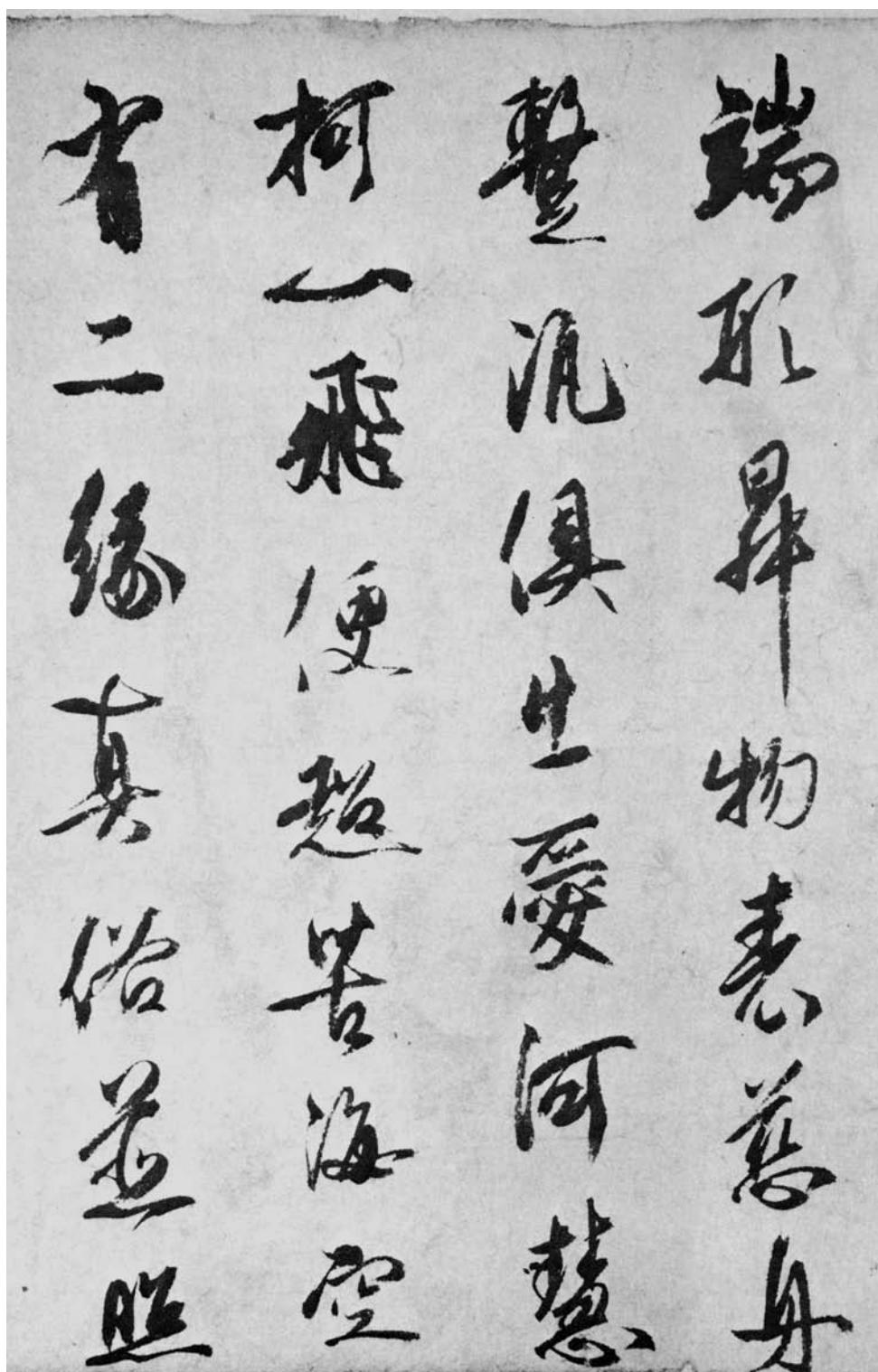
地僻人難到

溪深鳥自飛

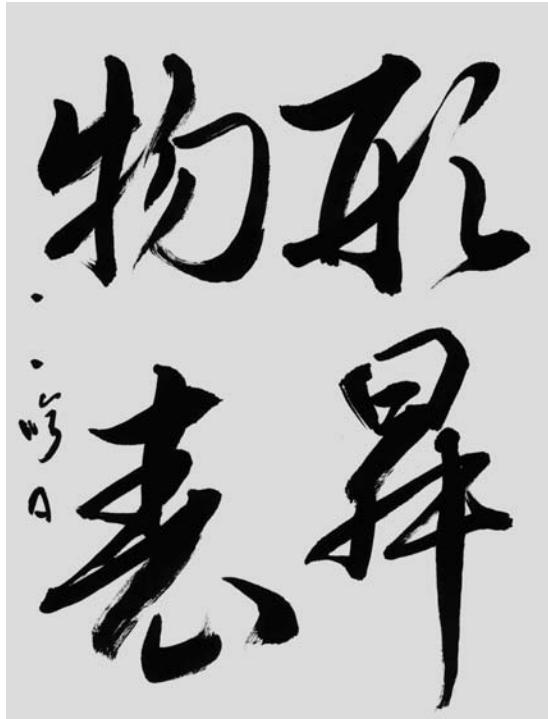
儒衣荷葉老

野飯藥苗肥

鄭常



端。形異物表。慈舟贊汎。俱出愛河。慧柯一飛。便超苦海。空有二緣。真俗並照。
(遂に)乃ち体は塵の) 端を(謝し)、形は物の表に昇る。慈舟贊く汎び、ともに愛河を
出で、慧柯一たび飛んで、便ち苦海を超ゆ。空有一縁、真俗並び照らし、



伝 橘逸勢・伊都内親王願文

三百年にも及ぶ平安時代の初期において、書道史上特にすぐれた能書家を三筆とよんでいる。嵯峨天皇、空海、橘逸勢がそれである。

橘逸勢に関する資料はほとんど残っていないが、延暦二十三年（八〇四）、平安朝が始まって最初の遣唐使船に乗り、空海や最澄らとともに中国留学をしている。渡唐中の彼は中国の文人たちに「橘秀才」とよばれたほどの学才の持ち主であつたらしが、帰国してからはあまり出世しておらず、従五位下という位の但馬守になつたのは死ぬ二年前のことである。嵯峨天皇が亡くなつて二日後の承和九年七月十七日、逸勢は謀反の疑いをかけられ、橘姓をうばわれて非人として伊豆へ流されることになつてしまふ。そして、その護送の途中で命を落とすという非業の最期をとげている。厳しい拷問にも屈服しない度胸のすわった剛毅な性格であった彼は、身に覚えのないことを認めるわけにはいかなかつたのである。死後八年がたつて彼の汚名は取り消され、正五位下が追贈された。また、その後も位の追贈が行われ、それと同時に生前の彼の才能も注目されるようになり、三筆と呼ばれるようになつたのである。

伊都内親王願文は、桓武天皇の皇女伊都内親王が、母藤原平子の遺言によつて、興福寺の東院西堂に香燈詣経料として田畠等を寄進したときの願文である。逸勢の筆という確証はないが、俯仰法を駆使し、ねばり強く力感あふれ、躍動感のあるこの書は彼の氣骨をあらわしていると言えよう。

（春濤）

8月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



中学一年



中学二三年

雨宮春聲先生書

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



小学五年



小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



だ
山

し
車

小学三年

細谷春誠先生書



りき
力

えい
泳

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



そ
ら

小学一年・幼年

明石幸子書



きょう
すい
行
水

小学二年

藤田幸春先生書

8月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

くる潮風のメロディ
貝がらから聞こえて

広い海原にぽつかり
とうかぶ緑の小島

岩に打ちあたる波しぶ
きは海の怒りのようだ

幸福ほど人間の美しさに
たいする化粧品はない

いさみのいからせんすをあくね
「夏ま山に歌はむ？」

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

うか
かが
ひや
かく
るた
うい
みよ

幼年

とな
てつ
の木
すか
しげ
いは

小学一年

たは
まべ
白い
でみ
がつ
らけ

小学二年

かは
歩げ
道を
しい
ぬ夕
らだ
すち

小学三年

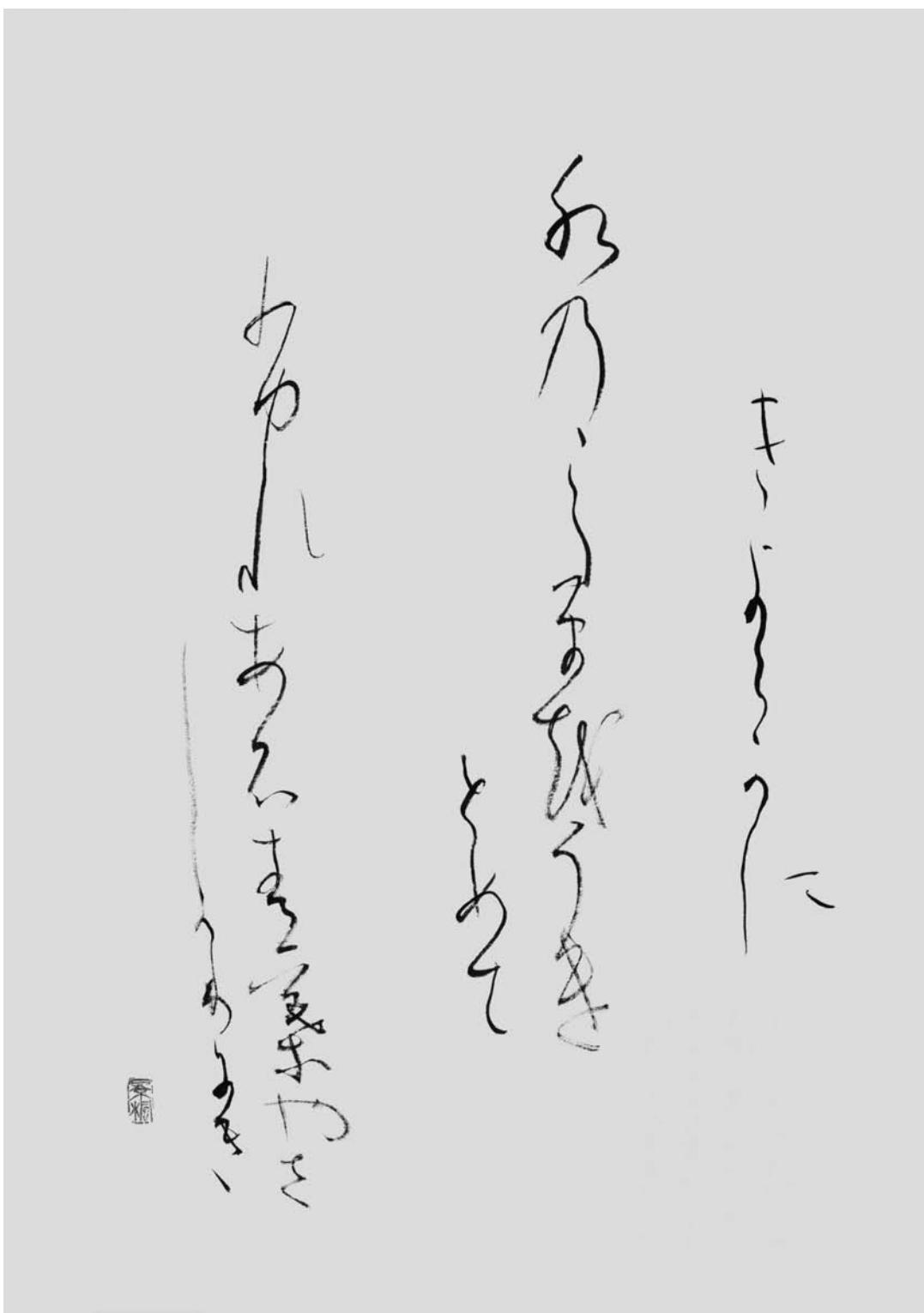
エアコンを止め
せんの風を入れた

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

8月25日正午必着



若本景楓先生書